

(12) キャリア教育研究会

会長 岸本 教恵 (東山小)

副会長 白石 浩美 (東山小)

事務局 若松 柚似 (中村中)

1. 研究主題 「キャリア教育の充実を図る」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和4年 5月6日 (金)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校	5名参加
令和4年 8月5日 (金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 ・研修① 内容 講話 「キャリア教育の充実に向けて」 講師：西部教育事務所 池谷 康史指導主事 ・研修② 内容：実践交流	中村中学校	5名参加

3. 四万十市教育研究会 夏季研修会

研修① 講話「キャリア教育の充実に向けて」 西部教育事務所 池谷 康史指導主事

子供たちをめぐる課題

- ・TIMSS 調査(2007)の結果より、日本の中学生の学力は良好である一方、自分が将来就きたい仕事のために学習を行う必要があると答えた割合は、参加国・地域の中でも最底辺である。
- 現在の学習と将来の仕事との関連に気付かせる必要がある。キャリア教育の充実が求められる。

キャリア教育の課題

- ・これまでの学校の教育活動全体で行うとされてきた意図が十分理解されていない。
- ・指導場面が曖昧である。
- ・「進路指導」と混同される時がある。

高知のキャリア教育

- ・高知県では「学力向上」「基本的生活習慣の確立」「社会性の育成」の3つを柱としてキャリア教育を行うことで、「基礎的・汎用的能力」を育成していこうと考えている。このとき、今までの教育活動を新たな視点(＝キャリア教育の視点)で捉え直し、3つの柱を計画的に実践することで、今までの取り組みの質を高めていく。

キャリア教育の充実について

- ・キャリア教育は学校のすべての教育活動(教科活動・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・学校行事など)を通して行う。
- ・小・中・高等学校において系統的にキャリア教育を推進する。小学校で基盤づくり、中学校で意識の形成、高等学校で意識の確立を目指す。キャリア教育を意図的・継続的に行う必要がある。

→様々な教育活動の中で「何がキャリア教育に当てはまるのか」「キャリア教育で子どもたちにどのような力を身につけさせたいのか」を全教職員で共通理解を図る必要がある。

キャリア教育で育成すべき力

- ・キャリア教育で育成すべき力である「基礎的・汎用的能力」は「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」である。これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身につけさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子どもの実態を踏まえて、工夫して設定する。目標とした能力が身についた具体的な子どもの姿を想定しておく。

キャリア・パスポートについて

- ・キャリア・パスポートとは、子どもが自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオのことである。その記述や自己評価の指導には、教師が対話的に関わることが大切である。
- ・キャリア・パスポートの効果的な活用として、「題材をつなげ、学びをつなげる」や「学校行事をつなげ、学びをつなげる」が考えられる。具体的には、「運動会の取り組み」についてのキャリアシートを毎年蓄積していくことで、子どもは自己の成長を振り返りやすくすることができる。

→小・中で、どのキャリアシートを残していくかを確認しておくとうい。

研修② 実践交流

各校のキャリア教育全体計画、年間計画、生徒のキャリアシートを見合って

- ・子どもが記述したキャリアシートに教員があまりコメントを書くことができていなかった。学期末の振り返りのキャリアシートは、長期休みに教員がコメントをするなど、工夫した取り組みを考えたい。
- ・東山小、中村中、具同小、中村西中のキャリアシートを見合うことで、小・中のつながりが見えた。
- ・キャリア教育で身につける資質・能力と5枚のキャリアシートを蓄積する理由などについて、全教職員で最初に確認することが大切であると思った。
- ・キャリアシートに記述する時間は、つけたい力を見つめ直す時間であることを子どもに伝えていくことが大切であると思った。
- ・キャリアシートを書くことが目的となってしまうていた。書いたことをどのように活かしていくかを計画していくことが大事であると思った。
- ・具同小と中村西中は、全体計画の中に小学校と中学校両方のつけたい力が書かれている。
- ・見合うことによって、気づくことがたくさんあった。学校内や校区の小・中で見合うことで、共通理解をしていくと良いのではないかな。
- ・持続可能な取り組みであることが大切である。重点的な行事はキャリアシートに書かせて、それについては全教職員でコメントを書くことを統一するなど工夫するとよいのではないかな。キャリア教育担当者として、続けることができる方法を提案する。
- ・教師は「つけたい力」を視点にコメントをし、指導することが大切である。
- ・ファイリングするキャリアシート5枚は年度初めに配布しておくとういのではないかな。
- ・藤川球児さんの話でもあったように、夢を書かせ、夢を叶えるためにどうすればよいかなどもキャリアシートに書かせたい。年度初めに自己紹介文などを書かせても良いかもしれない。
- ・高等学校では進路を考える際にキャリアシートを活用しているとのこと。
- ・キャリアシートを振り返る場などを授業の中で教師が設定することが大切である。

- ・キャリアシートは子どもが振り返りやすいものになっているのか。キャリア・パスポートは12年間の長い取り組みである。子どもが振り返りやすいような工夫したファイリングの在り方を検討したい。

4. 今後の成果と課題

成果

- ・キャリア教育をどのように推進していけばよいのか学ぶことができた。
- ・各学校のキャリアシートを見合うことで、小・中でどのようにつながっていくのかが見えた。
- ・自校のキャリア教育の在り方の課題が見えた。
- ・担任がキャリアシートにコメントを返すことが子どものキャリア発達につながることを自校で共有できた。

課題

- ・今年度の研修参加者は5名と少なかった。四万十市全体のキャリア教育の充実につながるよう、キャリア教育研究会を存続させたい。
- ・担任がキャリアシートにコメントを返すことは時間的に難しさがあつた。コメントを返すことができるよう工夫が必要である。